



奨学生ニュース

青森県民主医療機関連合会 薬学生小委員会
青森市中央 1-6-8 3F
Tel 017-723-4076 Fax 017-773-5326
E-mail ; yakugaku@aomin.jp

青森県民医連 医系合同奨学生会議開催

10月30日(土) 青森県民医連奨学生会議を初のオンラインで開催しました。

毎年、医学生・薬学生・看護学生が集まって行っているこの企画ですが、昨年は新型コロナウイルス感染予防のため泣く泣く中止にしました。。。しかし、今年初めてのZoomを利用したオンラインで開催できました！奨学生19名(医学生4名、薬学生2名、津軽看護学生11名、青森看護学生2名)と職員11名が参加しました。

まずはアイスブレイクとして「漢字一文字で自己紹介」。一人10秒という決まりがあったからか全員で間を空けないように連携プレーで自己紹介をして、予想以上に盛り上がりました！性格・趣味・好きなものなど、選んだ漢字の理由が様々で、終始楽しいアイスブレイクとなりました。

今回の学習テーマは「コロナ禍での青森民連の医療活動と地域貢献について～事例から学ぶこと」。青森県民主医療機関連合会 会長 田代 実 医師より、学習「奨学生に伝えたいコロナ禍での医療活動について」と題して、コロナ禍で津軽保健生協 健生病院の医療活動はじめ、職員に対するメンタルケアやPCR検査等の地域貢献、そして住民から直接頂いた感謝の言葉などあらゆる方面から、激動のコロナ禍での職員の奮闘や努力などについてお話いただきました。また、将来一緒に働く奨学生に対しエールと、10/31衆議院選挙の投票への重要性についてお話いただき、奨学生は最後まで真剣に話を聞いていました。



青森県民主医療機関連合会 会長
田代 実 氏
(健生病院 副院長)



また、今回は(株)ファルマ 村上昌 薬剤師(ファルマ弘前薬局)、津軽保健生協 高橋 詩子看護長(健生病院)、青森保健生協 三井 麻莉看護師(あおもり協立病院)の3名の職員に事例発表「コロナ禍における困難事例から気づくこと、学ぶこと」を行っていただきました。その後のSGDで各グループ多くの質問が出るほど、全奨学生興味深くメモを取りながら話を聞いていました。

当日参加してくれた、2名の薬学奨学生にとって、医師や看護師から直接「コロナ禍の医療活動」を聞くのは初めての体験！田代会長に関しては、【奨学生の書類の文字】のみでしか知らない存在だったので直接貴重なお話を聞くことができ感動していたようです！！

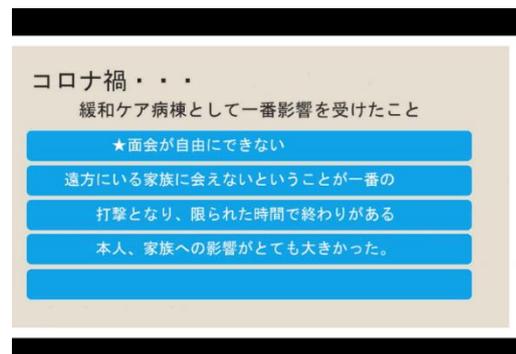
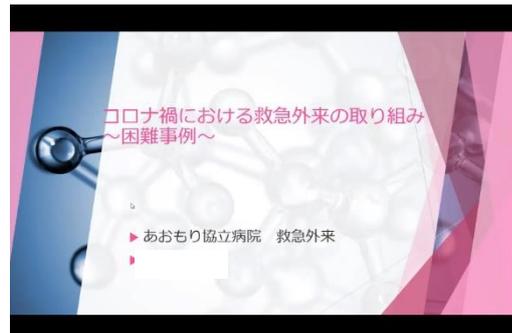
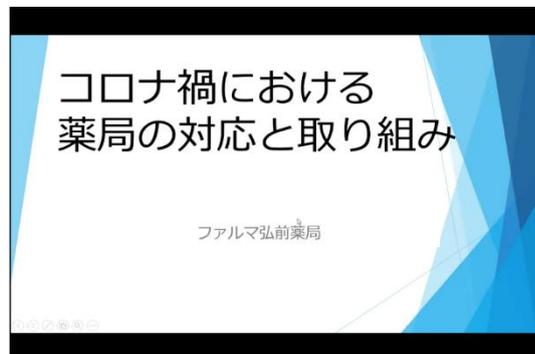
また、看護師からの困難事例や緩和ケア病棟での事例を聞き、ますます「多職種連携」の重要性を実感できたようでした。いつの日か一緒に働く奨学生仲間同士の交流も良い経験になったようです。

参加した奨学生のお二人、SGDの司会や田代会長への質問など積極的な関わりを持ってくれてありがとうございます。この経験はお二人の力や糧になったと思います。

薬剤師代表として務めた、村上薬剤師、本当にお疲れさまでした。わかりやすい発表ありがとうございました！

今回参加できなかった奨学生は、年に一度のこの貴重な企画に来年度ご参加くださいね！

(青森民医連 山口)



青森民医連！